

2018 平成30年

主なできごと

2月2日	1市2町へ芋玉贈呈
2月6日	冬期地区別懇談会(6~9日)
2月20日	JAバンク全国大会功労者表彰
3月13日	北海道農業協同組合功労者表彰
3月21日	カーリング女子「LS北見」にJA加工品を贈呈
3月27日	「新婚さんの集い」を初開催
4月10日	第15回JAきたみらい通常総代会
5月14日	小泉進次郎氏が訓子府選果場を視察
7月3日	新規就農者激励状授与式・交流研修会(19人就農)
7月5日	玉ねぎ冷蔵貯蔵施設 修祓式
7月10日	夏期地区別懇談会(10~13日)
7月12日	第60回オホーツクJA野球大会で優勝
7月21日	第15回JAきたみらい乳牛共進会
8月10日	役員作況調査
8月25日	第11回きたみらい農業体験&見て歩きツアー
9月6日	胆振東部地震が発生
10月9日	JAみらいサミット特産品フェア
11月13日	第29回JA北海道大会
12月1日	コンプライアンス研修会
12月4日	第10回JAみらいサミット(4~5日)
12月26日	1市2町へ鏡餅贈呈



カーリング女子「LS北見」に
JA加工品を贈呈



ハロウィーンフェスティバル2018



「OKETO GREEN FESTIVAL」 ケータリング



JA女性部 東日本大震災被災地を訪問



4月5日

設立70周年記念式典・・・端野町農民同盟 “七十年のあゆみ 挑戦”を発刊

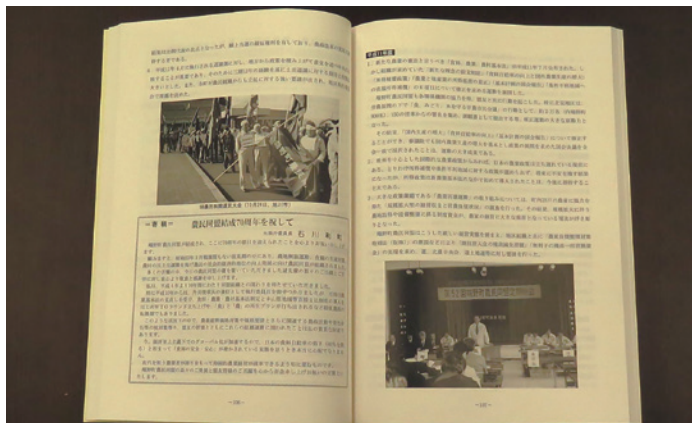
北見市内のホテル黒部で「端野町農民同盟設立70周年記念式典」を開催し、約50人が参加した。

開会で委員長の土山 毅さんが設立70周年にあたり、「端野町農民同盟は戦後混乱期中、農民社会の民主化や経済的地位の向上のために農民運動が始まりである。これからも、自由と平和を目指し、豊かな農業・農村社会を明るくする運動に「挑戦」して行きます」と力強く挨拶された。

端野町農民同盟は昭和23年3月に（故）天谷平信初代委員長のもと、当時の端野村端野にあった「豊年座」（興行場）で端野村農民同盟の発会式が行われ設立され、現在はJA端野地区事務所に事務所を置き、活動している。



乾杯シーン



設立70周年記念誌「七十年のあゆみ 挑戦」

5月10日

農作業に汗を流し 今後の糧に

新採用職員15名が農作業を体験する農家実習を行った。組合員と一緒に作業をすることで、農業の苦労ややりがいを身をもって体験し今後の業務に活かすことを目的に実施しており、玉ねぎ・てん菜の苗運びや補植に汗を流した。



玉ねぎの苗を運ぶ新人職員

20年のあゆみ

7月21日 第15回乳牛共進会開催 ～乳牛の資質を競い合う～

JAときたみらい酪農振興協議会の共催で訓子府町の北見管内畜産総合施設で乳牛共進会を開催し、JA地域から56頭の乳牛がエントリーされ、体型の美しさや骨格の力強さ、乳房のバランスなどの資質を競い合った。審査員は一般社団法人ジェネティクス北海道十勝北見事業所次長の吉田潤氏が務め、最高位賞は、「DH オット ダツシユ」が受賞した。

子ども達が手綱を引く「ショウマンショー」では14名が参加し、小学3年生以下の部と小学4年生から実習生の部が行われ、お母さんと一緒に幼児も手綱をリードする姿に会場は笑顔に包まれた。



未経産・経産の部の最高位と
準最高位の4頭と関係者の皆さん



経産の部 最高位を受賞した北見地区
山内誠さんの5歳クラス
「DH オット ダツシユ」

3月27日 「新婚さんの集い」を初開催 ～新婚激励会に9組16名が出席～

平成29年度に結婚した後継者及びパートナーを対象とした「新婚さんの集い」を初めて開催し、西川組合長からは祝福と激励の言葉が送られた。参加者らは互いに営農に向けた思いを話し合うなど交流を深め、仲間づくりを行った。



参加者で集合写真

5月14日

**小泉進次郎委員長が訓子府選果場を視察
～自民党農産物輸出促進対策委員会が来訪～**

自民党農産物輸出促進対策委員会の小泉進次郎委員長らや武部新環境大臣政務官は、農産物の輸出支援対策強化に向け、アメリカやロシア輸出への販路開拓に取り組む北海道のJAを視察する中で、当JA訓子府玉葱選果場と生産者圃場を訪れた。

西川組合長から小泉氏へロシア輸出の障壁や生産現場の課題や生産者の想い、玉葱列車の重要性について伝えられた。

玉葱選果場では、素早く丁寧に選別している作業に興味深そうに見学され、作業している作業員に優しい笑顔で手を振って精力的に視察した。

小泉氏からは「玉葱を見るたびに3個に1個はきたみらいの玉葱と思うこと、生産者を想うこと、西川組合長の政治家顔負けの話しぶりも思い出しながら、今月中に農産品の輸出拡大に向けた提言をまとめたい」と答えた。



視察団がきたみらい制服を着て



訓子府 林一樹さん親子と記念写真

8月31日

**老舗洋食店「つばめグリル」
生産者とシェフの交流会開催**

JAと東京の老舗洋食店「つばめグリル」は、JAセンター事務所にて生産者とシェフの交流会を開催し、生産者や関係者など約100人が参加した。



料理を囲んで交流する参加者

2019

令和1年

主なできごと

- 2月1日 1市2町へ芋玉贈呈
- 2月5日 冬期地区別懇談会(5~8日)
- 3月7日 第28回JA全国大会
- 4月2日 「新婚さんの集い」開催
- 4月3日 きたみらい酪農青年部設立10周年記念式典
- 4月10日 第16回JAきたみらい通常総代会
- 5月15日 JAきたみらいと北海道大学の共同研究「みらいプロジェクト」発足
- 6月20日 新規就農激励状授与式・交流研修会(12人就農)
- 6月27日 玉ねぎ集出荷施設修祓式・完成祝賀会
- 7月9日 夏期地区別懇談会(9~12日)
- 7月10日 南地域役員と青年部南支部役員との懇談会
- 7月20日 第16回JAきたみらい乳牛共進会
- 8月4日 きたみらいKid's販売体験(4~6日)
- 8月8日 役員作況調査
- 9月14日 HBCテレビ「あぐり王国北海道」収録(放送日19年10月19日 玉ねぎ収穫体験→選果場見学→料理の試食)
- 10月7日 ラッピングトレーラー完成報告会
- 10月10日 第11回JAみらいサミット(10~11日)
- 11月6日 地域女子会
- 11月7日 西地域役員と青年部西支部役員との懇談会(以降東地域)
- 11月12日 JA北海道大会実践フォーラム
- 11月18日 JAきたみらいと(株)湖池屋コラボ商品「じゃがいも心地」販売開始
- 12月7日 コンプライアンス研修会
- 12月25日 1市2町へ鏡餅贈呈



13戸でJGAP団体認証取得

玉ねぎ段ボールの改良でコスト削減



(従来品)



(改良後)



道産食材の魅力を詰め込み新発売



広報誌「おひさまサラダ」200号!

7月17日

農福連携事業スタート

障がい者の就労訓練や雇用の場だけではなく、労働不足問題を抱える農業にとって働き手の確保や地域農業の維持を目指した取り組みとして、農福連携事業の体験実証圃を設置し、北見市内3カ所でスタートした。同市にある就労移行支援施設「川東の里・風楽里」の利用者がそれぞれの受入農家を訪れ、ニンニクやサラダ玉ねぎの収穫作業などを行った。



作業の説明をする北見地区の佐藤正人氏



ニンニクの根切り作業をする利用者

5月15日

「みらいプロジェクト」が発足 ～地域農業の発展を目指し意見交換～

JAと北海道大学大学院農学研究院は共同研究「みらいプロジェクト」を立ち上げた。今年度からスタートした第5次地域農業振興方策並びに中期経営計画にも掲げられており、JAが研究費を寄附し、北海道大学が主体となってこれからのJAのあるべき姿を目指して調査を行い、JAが目指す豊かな農村づくりや地域との共存を目指していくことを狙いとしている。



西川組合長、坂下教授ら発足式に参加した関係者

20年のあゆみ

6月27日

「玉ねぎ集出荷施設」稼働 ～良質な玉ねぎの安定出荷に向けて～

北見市西相内に「玉ねぎ集出荷施設」が完成し、関係者約340人を招いた修祓式が執り行われた。修祓式で西川組合長は「JAきたみらいの玉ねぎは全国約20%のシェアを誇る日本一の産地であり、これまでも選ばれる産地を目指し、玉葱振興会と一体となった事業を展開し販売努力を進めてきた。しかし、安価な輸入玉ねぎの増加といった厳しい販売環境のなか、全国一の産地として更なる高みを目指すためには長期にわたり高品質な玉ねぎを安定供給するため最新鋭の集出荷施設を整備することが必要であった。この施設の完成により、日量約400tもの選果が可能となり、昨年完成した冷蔵貯蔵施設の稼働と合わせて今後は玉ねぎの長期出荷が強化され、消費者への安定供給並びに生産者の所得向上が期待できる」と述べた。



完成した施設



テープカットをする関係者

10月7日

ラッピングトレーラー完成報告会 ～地域へ食と農の魅力発信を目指し～

北見通運株式会社の協力のもと、農業やJAの情報発信を目指し2台のトレーラーにラッピングを施した。荷台の側面部分には農畜産物のキャラクターを描き、魅力ある農業やJAのアピール、サポーターづくりを図る一環として地域住民が楽しめるデザインになっている。



ラッピングトレーラーの前で集合写真

9月14日 ”あぐり王国北海道NEXT”が取材

JAグループ北海道が提供するテレビ番組「あぐり王国北海道NEXT」の収録が行われた。ロケでは、日本一の産地である玉ねぎの収穫体験や国内最大級の選果場の作業風景、JAフレッシュミズが調理した料理の試食などが収録された。



収穫作業をする出演者と玉葱振興会の加藤副会長



玉ねぎを観察する出演者

10月12日 オホーツク農業祭2019開催

オホーツク農協青年部協議会は、「オホーツク農業祭2019」をサンドーム北見で開催した。オホーツク農業の特徴紹介や農畜産物・加工品の販売を始め、子供たちを対象に食育〇×クイズや、ゲーム形式でオホーツク地域農業の学習などを行い、青年部と消費者との交流と農業PRを行った。

JAきたみらい青年部役員は、JAオリジナル商品を販売し、中でも「玉ねぎとチーズが溶け込んだポークカレー」は新商品で、来場客の関心を寄せた。



店頭にて商品販売を行う青年部役員

2020

令和2年

主なできごと

- 2月6日 1市2町に芋玉贈呈
- 2月10日 冬期地区別懇談会（10～14日まで）
- 3月25日 JAきたみらいで家畜輸送業務を導入
ホクレントラック訓子府事業所の安全祈願祭を行う
- 4月1日 ベトナム人技能実習生受入開始（9人）
- 4月3日 馬鈴しょ粗選別機導入 修祓式を実施
（3日：置戸、10日：端野）
- 4月14日 第17回JAきたみらい通常総代会
- 4月14日 農作業事故「ゼロ」運動標語コンクール表彰
最優秀賞は
「安全に 作業してこそ きたみらい 安全に 作業するから 我がみらい」
- 5月25日 管内の学校などに乳製品贈呈（25～6月8日まで）
- 5月26日 YouTube「きたみらいスマート農業チャンネル」開設
- 5月27日 コントラクター事業の車両、機械の修祓式を実施
- 6月23日 西川組合長退任、道厚生連副会長就任
大坪組合長新体制でスタート
- 6月25日 新規就農者激励状授与式（14人就農）
- 7月13日 夏期地区別懇談会（13～16日まで）
- 10月1日 中ノ島給油所でピット作業再開
- 10月22日 「第8回プラチナ大賞」優秀賞技術革新賞 受賞
- 11月30日 管内小中学校に乳製品贈呈
- 12月25日 1市2町に鏡餅贈呈
- 1月29日 第50回日本農業賞「大賞」（きたみらい玉葱振興会）受賞
- 1月30日 訓子府車両整備工場・事務所棟・検査棟の修祓式を実施



コントラ事業による馬鈴しょ収穫



完成した訓子府車両整備工場



家畜輸送業務を開始



外国人技能実習生も加わり、
加工用馬鈴しょの選別スタート



第8回プラチナ大賞優秀賞
技術革新賞 受賞



外国人技能実習生を迎えての
春作業

2月18日 先端技術普及に向け、 スマート農業推進協議会設立

農業者の減少による農地流動化や労働力不足などの課題の解決および、各種作物の生産性の向上を目的に関心が高まるスマート農業を管内で普及啓蒙することを目的に、スマート農業推進協議会設立総会を開いた。

9人の委員で設立準備委員会を立ち上げて準備を進め、会員232人で協議会を設立。留辺蘂地区の荒喜文さんが初代会長に選任され、技術の高位平準化や地域への普及を目指す。



あいさつする荒会長

4月 牛乳を飲んで地産地消を応援

きたみらい管内の生乳で生産されている「きたみらい牛乳」が新型コロナウイルス感染拡大の影響で製造を休止した。地域のホテルや飲食店が次々に休業しているため、牛乳の消費が落ち込み、製造に必要な量を下回ったことが原因。

しかし、「客足が少なくても地元産を使いたい」と温泉施設からの要望をうけ、役員や農業関係団体など約400人に購入を呼びかけることによって250kgを超える消費となり、製造に必要な量を確保。4月15日より製造を再開した。



教育委員会への乳製品寄贈



きたみらい牛乳

20年のあゆみ

6月1日

人手不足で悩む農業法人のもとで、農業研修開始
～ピンチはチャンス、第一次産業学びきっかけに～

温根湯地区の(株)森谷ファームで石屋製菓(株)の若手社員らが農業研修を開始した。

一般社団法人北海道農業法人協会のサポータークラブ会員である石屋製菓(株)の北海道農業活性化に向けた取り組みで、新型コロナウイルス感染症の影響により休業していた製造工場や観光施設「白い恋人パーク」に勤務する入社3年以内で30歳未満の社員約130人が対象。人手不足となっている8農業法人のもとで農業研修を実施し、原料供給元の農業や酪農について学び、情報収集や生産者との関係構築を目的としている。



竹をまとめる社員

6月23日

西川組合長が道厚生連副会長に就任
大坪組合長のもと新常勤役員体制スタート

JA北海道中央会および各連合会（ホクレン・信連・厚生連）は6月23日、24日に通常総会を開催した。3年ごとの役員改選期にあたり、西川孝範組合長が北海道厚生連代表理事副会長と全共連北海道本部運営委員会副会長に選任された。

それに伴い、西川会長、大坪広則組合長、齊藤和雄専務、高橋優常務、越田喜裕常務によるきたみらいの役員体制がスタートした。



あいさつをする西川会長



就任あいさつをする大坪組合長と齊藤専務



7月27日

置戸町と災害時における 石油類燃料等の協定締結

災害時における石油類燃料を優先的に供給する協定を置戸町と締結した。

2018年9月6日に発生した北海道胆振東部地震で起こったブラックアウトにより、搾乳や生乳の冷却ができなくなるなど酪農家を中心に甚大な被害が発生した。これをきっかけにきたみらいでも災害に対する備えを見直し、2019年にきたみらい管内の事務所、給油所に発電機を設置するなど対応。このことを受け、地域住民への石油類燃料の安定確保を図る目的として、置戸町から協定締結の依頼を受けて実現した。



左から流水購買部長、大坪組合長、深川置戸町長、箕島置戸副町長



給油所に設置された発電機

11月5日

スマート農業を体験 女性農業者研修を開催

女性に限定したスマート農業研修会を訓子府町のホクレン訓子府実証農場で初めて開催した。少子高齢化で組合員が減少する中、女性にもスマート農業を推進・普及することで人手不足の解消や作業の省力化につなげる目的で企画し、29人が参加。

自動操舵トラクターの試乗やアシストスーツの試着などを通して次世代の農業について学ぶとともに、実際の事故事例の説明を受け、事故防止の重要性についても再確認した。



自動操舵トラクターに試乗する参加者



アシストスーツを体験する参加者

2021

令和3年

主なできごと

2月4日	第50回日本農業賞「大賞」・農林水産大臣賞（きたみらい玉葱振興会）受賞
2月8日	冬期地区別懇談会（8～12日まで）
3月6日	第50回日本農業賞「大賞」（きたみらい玉葱振興会）表彰式
4月12日	第18回JAきたみらい通常総代会
5月13日	全国農業協同組合中央会会長賞 普及率全国最高JA表彰式
5月21日	新型コロナウイルス感染防止対策会議（以降随時）
6月2日	玉ねぎ茎葉処理施設修祓式
6月24日	新規就農者激励状授与式・交流研修会（19人就農）
7月9日	訓子府玉ねぎむき玉選別加工施設 完成
8月18日	JAきたみらい東京事務所 開設
10月6日	第60回農林水産祭「天皇杯」（きたみらい玉葱振興会）受賞
10月8日	乳牛共進会「2021 Autumn Show」
11月1日	地区別懇談会（1～5日まで）
11月8日	端野資材拠点店舗 開店
11月16日	第30回JA北海道大会
11月23日	第60回農林水産祭「天皇杯」（きたみらい玉葱振興会）受賞式
12月4日	コンプライアンス研修会
12月8日	第12回JAみらいサミット
12月24日	1市2町へ鏡餅贈呈
1月27日	オホーツクJA監事研修会



端野資材拠点店舗の開店



女性部部員交流会（カーリング）



みらいプロジェクト中間報告会を実施



合併記念共進会の開催

きたみらいホルスタイン改良同志会は10月8日、訓子府町の北見管内畜産総合施設で乳牛の共進会「2021Autumn Show」を開催した。



コーチャンフォーマルシェに出店

【きたみらい玉葱振興会】
第60回農林水産祭「天皇杯」受賞
第50回 日本農業賞「大賞」受賞

きたみらい玉葱振興会が第50回日本農業賞大賞・集団組織の部で大賞および農林水産大臣賞をダブル受賞した。

日本農業賞は、日本放送協会（NHK）、全国農業協同組合中央会（JA全中）、都道府県農業協同組合中央会が昭和46年に創設。

「全国最大の玉葱産地を築き上げるために旧8農協が広域合併し、巨大ロットの集荷・販売を実現。100年前から「北見玉葱」の栽培が始まり、作付面積が拡大していく一方、平成14年には全道で48,000トンの玉葱が大量廃棄に。翌年、きたみらい玉葱振興会を結成し、産地形成を守った。同振興会は、品質の高位平準化を掲げ、品質向上と安定的な質・量の確保に繋がった」との評価を頂いた。

その後、きたみらい玉葱振興会は10月6日に第60回農林水産祭天皇杯を受賞し、11月23日に受賞式が開催された。農林水産祭は、国民の農林水産業に対する認識を深め、農林水産者の技術改善や経営発展意欲の高揚を図ることを目的に行われている。同振興会の根切り技術や定置式タッパーの開発など技術開発、需要に応じた出荷体制の構築による安定的な市場の形成と経営の安定化等の取組みが評価された。



天皇杯の賞状を授与される加藤会長



受賞した「天皇杯」カップ



表彰式での記念写真



表彰状を授与される加藤会長



新しく印字された段ボール

20年のあゆみ

4月14日 第1回スマート農業講習会

きたみらいスマート農業推進協議会は、JAセンター事務所にて第1回スマート農業講習会を開き、生産者やJA職員など約50人が参加した。

同協議会は、スマート農業技術の導入・普及で農業者の減少による農地流動化や労働力不足などの課題解決や各種作物の生産性の向上を目指すため、前年2月に設立。今回の講習会はスマート農業に関する知識を深めてもらい、これから本格化する農作業の不安を解消することを目的に開催した。



スペースアグリ講習の様子



GPSガイダンス講習の様子

8月5日・12日 牛乳贈呈で病院を応援！

JAは、感染症指定医療機関であり地域の新型コロナウイルス感染防止、治療に向けて取組む病院を応援するためオホーツク地域の厚生病院（網走・遠軽）へ「きたみらい牛乳」を寄贈した。

「きたみらい牛乳」は同JA管内の生乳が使用されている。5日に網走厚生病院へ500本、12日に遠軽厚生病院へ400本の牛乳が贈られた。



きたみらい牛乳を持つ
網走厚生病院中野院長と大坪組合長

8月2日 圃場に大きなアート出現 ～JAきたみらい青年部～

JA青年部西支部は、北見市留辺藪町で圃場アートの作成を行った。新型コロナウイルス拡大防止のため、部員5人とJA職員ら少人数での実施となった。

同事業は、農業PRやGPS技術の活用事例を学ぶことを目的に、GPSトラクターを用いて小麦収穫後の圃場にて行った。同JA管内では初の試みでうまくできるか不安もあったが、完成した「JAきたみらい」の文字に参加者からは感嘆の声が挙がった。



完成した圃場アート

8月14日 干ばつ気象に伴う作況視察

北海道内全域では高温と少雨によって、過去にないほどの異常な干ばつとなった。当地域でも6月から7月にかけての降水量は例年の40%ほどであった。その影響を受け、玉ねぎの変形や飼料作物の減収、農作物が枯れるなど多大な被害が出た。

これをうけて武部新代議士が8月14日にJAを訪れた。当地域の各作物生育状況を報告後、生産者からの説明を交えて玉ねぎと馬鈴しょの圃場を視察した。また、北海道農政部やJA北海道中央会も7月30日に当地域を訪れ、作物生育状況の確認や圃場視察を行った。



圃場視察を行う当JA役員と武部新代議士

2022

令和4年

主なできごと

- 2月28日 冬期地区別懇談会（28～3月3日まで）
- 3月9日 2021年度特別優良農業協同組合表彰 受賞
- 4月12日 第19回JAきたみらい通常総代会
- 6月29日 新規就農者激励状授与式・交流研修会（20人就農）
- 7月7日 監事視察研修（～9日まで）
- 7月11日 夏期地区別懇談会（11～15日まで）
- 7月16日 第19回JAきたみらい乳牛共進会
- 8月7日 きたみらいkid's in 札幌（～9日まで）
- 8月26日 合併20周年記念事業実行委員会（以降随時）
- 11月4日 南地域女子会（以降各地域）
- 11月11日 南地域青年部いきなり飲み会（12月2日東地域で開催）
- 12月3日 コンプライアンス研修会
- 12月7日 第13回JAみらいサミット
- 12月26日 1市2町へ鏡餅贈呈
- 1月16日 きたみらい玉葱振興会市場協議会



7月26日 高校で出張授業

食育やサポーターづくり、人材育成の一環として留辺蘂高校や北見藤高校で出張授業を行った。また、2校には日本農業新聞を提供し、購読してもらうことで食や地域農業への理解を深めてもらった。



7月13日 農福連携で農作業実施



2021年度特別優良農業協同組合表彰 受賞



10月 資材高騰対策などについて 3行政へ支援要請

新型コロナウイルス感染症やウクライナ情勢の影響から営農に必要不可欠な生産資材が高騰。食料安全保障強化の実現を図るため、生産者の営農にとって即効性のある施策を講じてもらうよう、北見市、訓子府町、置戸町及び各議会に対して支援要請した。



2月

端野地区で第三者経営継承に向けた研修開始

端野地区では、池田直貴（なおき）さんと理（みち）さん夫妻が第三者継承による就農を目指して福田嘉博さんの農場で2年間の研修を開始した。研修を10日ほど行い、「体を使う仕事と改めて感じており、毎日がとても充実している」と笑顔で話した。



皆さんで集合写真



玉ねぎの伏せ込みを行う様子

3月24日

牛乳消費拡大運動に取り組む

コロナの影響や学校の春休みによって学校給食がなくなるなど牛乳需要が落ち込むことから、消費拡大運動に取り組んだ。

JA管内にあるホクレンスタンド6か所の利用者に牛乳1ℓパックの無料配布を行い、総数1,650本の牛乳をきたみらい酪農振興協議会やきたみらい酪農青年部の役員が協力して直接手渡した。



スタンド利用者に牛乳を渡す役員

6月28日

女性農業研修会を開催

訓子府町で女性農業者研修会を開催し、管内から11人が参加した。

この研修会は、これからトラクターのオペレーターを目指すなど農作業に対して意欲のある女性農業者を応援するため、農業基礎や農作業安全の知識習得を図ってもらうことを目的に開催した。



トラクターの危険箇所を確認



グループワークを行う参加者

20年のあゆみ

6月29日 豪雨・降雹による被害状況を視察

6月18日から20日にかけてオホーツク海側を中心に豪雨、降雹が発生し、当地域では玉ねぎを中心とした農作物の折損や土砂の流亡など広範囲で大きな被害に見舞われた。

武部新農林水産副大臣やJAグループ北海道などが6月29日に最も大きな被害を受けた訓子府地区を訪れ、JA役員などから被害状況を報告したほか圃場視察が行われた。



被害状況を視察する武部副大臣ら



7月8日 ドローン導入促進へ向けて 講習会

作物の生産性向上に向けて、ドローンの活用を目指そうと、きたみらいスマート農業推進協議会が講習会を開催した。



ドローンの説明を受ける参加者

7月21日 道からJ-VER証明書を 贈呈される

当JA管内で行うカーボン・オフセットの取組みに対して、北海道からオフセット・クレジット証明書が贈られた。



贈呈式の様子

8月7日 組合員子弟 声を枯らしPR

8月7日から9日の3日間、組合員の子弟を対象にした「きたみらいキッズ販売体験」を行った。

北見市と訓子府町、置戸町の小学5年生～中学1年生22人が参加して地元農産物をPRした。

同事業は、食農教育活動の一環として行われ今回で5回目となった。ホクレンの協力のもと北広島市にあるくるるの杜でJA産の玉ねぎと馬鈴薯を販売し、商品やPOPを手を持ち来場者にPRした。最初は緊張している様子だったが、大きな声でセールスポイントを説明し、用意した商品を完売させた。

最終日には、ホクレンの札幌野菜センターを見学し、全道から届いた野菜が袋詰めされていく様子を見て目を輝かせていた。子どもらは「畑で採れた野菜が消費者に届くまでを目で見て体験できて楽しかった」と話し、夏休みの貴重な学習の場となった。



販売体験を行う参加者



野菜センターで野菜の袋詰めを見学するキッズたち

11月4日 第2回地域女子会を開催

令和元年の第1回から3年振りに開催した。各地域合わせて54人が参加し、JA役員との懇談会を行った。JAによる農畜産物生産向上ビジョンについて説明後、コース料理を囲んで懇談した。



南地域女子会での乾杯の様子

